

設置に係る留意事項に対する履行状況

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項につ いての実施計画																																												
<p>許 可 時 (平成17年1月28日)</p>	<p>人文学部心理学科臨床心理専攻の定員超過の是正に努めること。</p>	<p>人文学部心理学科臨床心理専攻の入学状況は次表のとおりである。これまでの歩留率を勘案し、慎重に歩留を設定した結果、是正された。⑰</p> <table border="1" data-bbox="632 450 1238 624"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>平成15年度</th> <th>平成16年度</th> <th>平成17年度</th> <th>平均入学者定員超過率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">心理学科 臨床心理 専攻</td> <td>A入学定員</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>70</td> <td rowspan="3">1.40倍</td> </tr> <tr> <td>B入学者数</td> <td>114</td> <td>102</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>入学定員超過率B/A</td> <td>1.62</td> <td>1.45</td> <td>1.15</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成18年度の入学状況は、次表のとおりである。⑱</p> <table border="1" data-bbox="632 698 1323 866"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>平成15年度</th> <th>平成16年度</th> <th>平成17年度</th> <th>平成18年度</th> <th>平均入学者定員超過率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">心理学科 臨床心理 専攻</td> <td>A入学定員</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>70</td> <td rowspan="3">1.34倍</td> </tr> <tr> <td>B入学者数</td> <td>114</td> <td>102</td> <td>81</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>入学定員超過率B/A</td> <td>1.62</td> <td>1.45</td> <td>1.15</td> <td>1.14</td> </tr> </tbody> </table>	区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平均入学者定員超過率	心理学科 臨床心理 専攻	A入学定員	70	70	70	1.40倍	B入学者数	114	102	81	入学定員超過率B/A	1.62	1.45	1.15	区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平均入学者定員超過率	心理学科 臨床心理 専攻	A入学定員	70	70	70	70	1.34倍	B入学者数	114	102	81	80	入学定員超過率B/A	1.62	1.45	1.15	1.14	
区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平均入学者定員超過率																																										
心理学科 臨床心理 専攻	A入学定員	70	70	70	1.40倍																																										
	B入学者数	114	102	81																																											
	入学定員超過率B/A	1.62	1.45	1.15																																											
区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平均入学者定員超過率																																									
心理学科 臨床心理 専攻	A入学定員	70	70	70	70	1.34倍																																									
	B入学者数	114	102	81	80																																										
	入学定員超過率B/A	1.62	1.45	1.15	1.14																																										
<p>年次計画履行状況 調 査 時</p>																																															

7 その他全般的事項

<心理学研究科臨床心理実務専攻>

(1) 設置計画変更事項 等

認可時の計画	内容変更・状況、今後の見通しなど
特記事項なし	

(2) 自己点検・評価等に関する事項

<p>A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>(別紙のとおり)</p> <p>B 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表(予定)時期</p> <ul style="list-style-type: none">・札幌国際大学自己点検・評価報告書を、平成18年9月に公表予定 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員及び諸関係機関に配布 <p>C 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none">・日本高等教育評価機構の評価を、平成22年に受ける予定である

別 紙

1. 大学院心理学研究科臨床心理実務専攻設置の趣旨

本学の心理学研究科臨床心理実務専攻では、臨床心理学的な援助方法を教授し、さらに臨床心理学的援助の実践に不可欠な、現場の環境の体験的な理解、それぞれの臨床現場で求められている臨床心理実務技能の理解、長期にわたる実習実践による実務経験の蓄積を重視した指導・教育により、それぞれが職業場面における問題を主体的に発見し、自ら課題解決を実現できるような臨床心理実務能力を養成する。

2. 心理学研究科臨床心理実務専攻設置の必要性

北海道において臨床心理教育を施す大学院が充足しているとは言い難く、この分野の実務的訓練を期待する声大きい。このことから現実の臨床心理学的援助活動に即した、より実践的な専門教育を行う大学院の設置が必要であると考え、学習の目標を、各種の理論や技法を網羅的に学習するのではなく、精神分析学を中心に学習を進め、精神分析的思考法をさまざまな臨床現場で実際に応用できる実務的能力として習得させることを目指している。臨床心理的知識と技能に加え、クライアントの生活に密接に関わる臨床現場で活躍できる臨床心理実務家を養成するため、修了後の進路希望に添った現場を用意し、豊富な臨床実務経験を持つ研究アドバイザーにより、臨床心理学的援助の実務的訓練と教育を施すことでその要請に応えたい。

3. 修士課程の構想

心理学研究科の構想は、臨床心理実務の理解と臨床心理技能の習得を通し、病院臨床実務、教育臨床実務、地域臨床心理実務の発展に資する高度専門職業人の育成を指向するものである。臨床現場における実務的活動の体験を通し、臨床心理学的技能の習得を期し、地域社会への貢献を果たすことが本研究科の目標である。

(1) 病院臨床実務分野：精神科・神経科に加え、心療内科・小児科・内科・産婦人科・ホスピスと臨床心理専門家の活動分野は広がりを見せており、今後は福祉領域でのニーズが予想される。

(2) 教育臨床分野：北海道における「スクールカウンセラー活用調査研究委託事業」は他県に比べ派遣数が少なく、札幌・旭川・函館など都市部への集中が顕著である。

また、少子化傾向が進む中で子育て支援に臨床心理の専門家が必要とされてきている。さらに、発達障害を持つ幼児・児童を受け入れる幼稚園・保育園が増加してくるのに伴い、これまでの幼児教育の枠組みでは捉えきれない問題が生じてきており、こうした問題に対して心理学的援助実務が求められてきている。

(3) 地域臨床実務分野：自然災害時の避難先での集団生活や仮設住宅での精神保健の維持など心のケアに対する要求が高まっており、地域臨床の担い手として行政や公的施設での活躍が期待されている。また、養護施設での被虐待児への援助や発達遅滞者への支援などが指摘されている。

4. 教育課程の編成の考え方および特色

(1) 教育課程編成の基本的考え方として、スクールカウンセラーの任用資格である「臨床心理士（財団法人日本臨床心理士資格認定協会）」の教育プログラムを踏まえている。なお、平成18年1月に申請し、同年4月20日付けで「臨床心理士」受験資格に伴う養成に関する第1種の指定を受けている。

(2) 学校教育、福祉施設、保育施設、児童施設など病院以外の臨床現場の要請により、実践的な知識や技能の習得を目指す教育プログラムを構想した。

(3) 高度で専門的な職業能力と実務に関する演習・実習科目を配置している。

①演習科目－心理査定技能の基礎と事例検討を中心に理論と実践の統合科目を設定。

②実習科目－心理援助に関する知識と技能を実地体験に習得する実習・長期間の学外施設での実務体験実習を設定。

③課題研究－現場を理解しクライアントへの共感的な理解を通して得た様々な問題意識を検討し、研究計画を考案し、心理療法の課題を発見させ、長期の臨床体験、事例体験を生かすよう設定。

(4) 教育課程の特色

臨床心理面接、臨床心理査定、実践的研究活動の3つの柱を重視し、講義での知識と実習における実務訓練の相互連関的な積み上げによる学習を進める。内外の臨床現場での実務訓練を、短期間の導入的なものにとどめないこと、また幅広い領域を包含させることを目指している。